Hamamatsu Museum of Musical Instruments
浜松市楽器博物館だより
No. 62
2011. 1. 10
平成 23 年

開館 15 周年記念コンサート

19 世紀のフォルテピアノと弦楽　聴衆を魅了！

12 月 4 日（土）、5 日（日）の 2 日間、アクトシティ浜松中ホールで、楽器博物館開館 15 周年を記念して「第 108 回レクチャーコンサート～ 19 世紀のフォルテピアノと弦楽による室内楽の極み」と題したコンサートを開催しました。両日とも 5 時開演で、4 日はベートーヴェン・プログラム。ピアノソナタ「月光」、ヴァイオリンとピアノのためのロンド、チェロソナタ第 3 番、そしてピアノ協奏曲第 4 番室内楽版。5 日はシューベルト・プログラムで、即興曲変ロ長調「ロザムンデ」、ヴァイオリンソナタニ長調、歌曲「音楽に寄す」「ます」「きみは憩い」「魔王」、そしてピアノ五重奏曲「ます」。演奏は 19 世紀のフォルテピアノ演奏家として日本を代表するピアニスト小倉貴久子、ヴァイオリン桐山建志、花崎淳生、ヴィオラ藤村政芳、長岡聡季、チェロ花崎薫、コントラバス笠原勝二、テノール畑儀文の皆さんです。

使用したフォルテピアノは楽器博物館所蔵の自慢の逸品、ウィーンの名工、「帝室・王室宮廷のオルガン製作家、市民階級の楽器製作家」という名誉ある称号を持つアントン・ワルター&サンの工房で 1810 年頃に作られたものです。楽器博物館フォルテピアノコレクションの中でも最も素晴らしいピアノのひとつで、これまでにもコンサートやCDで使われてきました。ワルターのピアノは、ウィーン時代のモーツァルトやベートヴェンが愛用した楽器としてよく知られています。今回使ったフォルテピアノは、ソロで演奏しても素晴らしい音色なのですが、弦楽器や歌とのアンサンブルでも、その柔らかな音色が他の音と非常によく溶け合って、とても魅力的な響きを生み出します。

2 日間とも約 600 人の聴衆で埋まった中ホール聞かれたお客様からは「気品ある響きに魅せられました」「まさに室内楽の極みを堪能しました」との感想が寄せられました。

楽器博物館開館 15 周年を祝うにふさわしい、素晴らしいコンサートでした。

楽器博物館開館15周年
「電子チェンバロ・ミニコンサート」

10月3日午後2時から4時30分まで、天空ホールにて開館15周年記念「電子楽器の未来を探る～電子チェンバロ・ミニコンサート」を開催しました。これは浜松市に本社や工場がある電子楽器メーカーローランド株式会社が2008年に開発発売した電子チェンバロに、楽器博物館所蔵のブランシェ作のチェンバロ（1765年パリ）の音が音源素材として採用されていることが縁となって、楽器博物館とローランド芸術文化振興財団が共催で行うことになったものです。また開館15周年を記念してコンサートの出演者を広く全国から公募、市民参加の催し物をするという博物館新企画の一環として開催したものです。

応募されたアマチュアの音楽家の方から事前審査で7組が選ばれました。東は東京、西は島根県です。チェンバロは600年以上の歴史を持つ貴族に愛されたヨーロッパの鍵盤楽器ですが、繊細であるため、調律や保管が大変です。今回使用したのは電子チェンバロですから、その心配がなくなり、誰もが簡単にチェンバロの音を楽しめるようになったわけです。

音心

溝田陽子さん

最初はチェンバロとオカリナの二重奏グループ"音心"（浜松）による中林三恵の「赤い花白い花」ほか。

続いて溝田陽子さん（島根）ソロでバッハの「最愛の兄の旅立ちに寄せるカプリチョ」。3番目はソプラノとのデュオで辻森宏子さんと小田肇子さん（京都）がパーセルの「妖精の女王」から「愛が甘い情熱なら」ほか。

辻森宏子・小田肇子さん

4番目は山本五百子さん（東京）がラモー「ミューズの会話」ほかをソロで。5番目にフルート2本とチェロとのアンサンブル"ウィンズローグ"（浜松）がバッハ「小フーガ」ほか。6番目は近藤英明さん（東京）のソロで、クープランの「ロンド（牧歌）」ほか。7番目は、浜松西高校西弦楽部の有志で構成するアンサンブル"ゼフィール"がパーセルの「アブデラザール」から「エア」「ロンド」などを熱演しました。

山本五百子さん

ウインズローグ

近藤英明さん

弦楽アンサンブル"ゼフィール"

最後はチェンバロ、ヴァイオリン、チェロのプロのアンサンブル"アクア・トリニティ"さんの特別模範演奏で幕を閉じました。

アクア・トリニティ

世界の多様な口琴文化に驚く
特別展「世界がびよょ～ん・口琴ワールド」

10月28日(木)から11月28日(日)まで、特別展「世界がびよよ～ん・口琴ワールド」を開催しました。口琴は、枠に取り付けられた薄くて細長い弁を指ではじいたり紐で引っ張って振動を与えて鳴らし、口の中に共鳴させる楽器です。枠に弁が付いただけの非常に単純な構造の楽器ですが、口の中に響かせることで、極めて複雑な音響効果を出すことができます。材質は金属や竹、骨で、日本からヨーロッパまでユーラシア大陸ほぼ全域と、東南アジアに分布。中でもロシア連邦のサハ共和国は、口琴が国民楽器と言える盛んな国で、国立の口琴博物館や世界口琴センターがあるほどです。日本の口琴としてアイヌのムックリが有名です。

展覧会ではサハ共和国をはじめ、タイ、フィリピン、インド、インドネシア、パプアニューギニア、イタリア、オーストリア、ハンガリー、ノルウェー、アメリカなど、世界の口琴約100点と、口琴が描かれた絵葉書、ポスター、カレンダー、Tシャツ、トランプ、ポーチ、食器、絵本、口琴演奏のレコード、サハ共和国の民族衣装や生活用具など100点、合計200点ほどが展示されました。サハ共和国の口琴であるホムスは鉄製の丁寧な作りで、宝石をあしらった豪華なものもあります。長靴型のかわいらしいケースに入ったトゥバ共和国のテミルホムス、世界一大きなパプアニューギニアのスサブ、4本が一組になった中国雲南省のググなど、小さな楽器ですがとてもきれいな楽器がたくさんありました。口琴演奏風景の映像も常時放映され、訪れた人は普段あまり接することのない口琴に見入っていました。また11月2日（火）午後7時からは天空ホールにて、サハ共和国からの名演奏者を招いて口琴のレクチャーコンサートが開かれました。

イヴニングサロン

“ミュージアム・クリスマス”

12月22日（水）午後6時45分から展示室天空ホールにてイヴニングサロン“ミュージアム・クリスマス”を開催しました。博物館とローランド芸術文化振興財団との共催で、地元浜松を中心に活躍する音楽家が集い、楽しいコンサートになりました。

出演は浜松から浜松ライオネット児童合唱団（コーラス）、長瀬正典さん（サクソフォーンとリコーダー）、森下香菜絵さん（ヴァイオリン）、本多由美恵さん（ピアノ）、ミックス・フルーツ（フルート四重奏）、佐藤剛さん（ギター）、館長の嶋和彦さん（司会とリコーダー）、それに東京からのゲスト小松真由美さん（電子オルガン）です。

大理石のステージにはクリスマスツリー、後方の壁には大きなクリスマスリースが飾られ、教会の内部のような、なかなか素敵な雰囲気の中、コンサートはJ.S.バッハのオルガン曲「トッカータ」でクリスマスらしい華やかな幕開け。続いて合唱団の高学年によるヨーロッパの古い曲でW.バードの「三声のミサ曲」、M.プレトリウスの合唱曲「甘き歓喜のうちに」、ポーランドのキャロル「小さなイエス様」などの演奏で聖なる雰囲気に。次はヴァイオリン独奏。ラテンの名曲「エストレリータ」などで少しロマンティックなエレガントな空気に。リコーダー二重奏でG.F.テレマンの「ソナタ第1番」、電子オルガン独奏でバッハの「主よ、人の望みの喜びを」などは再びクラシック。フルート・カルテットでL.アンダーソンの「ワルツィング・キャット」「シンコペーティド・クロック」「そりすべり」は陽気で楽しい曲。児童合唱団全員で「ママがサンタにキッスした」「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」など、誰でも知っているクリスマスのポップス曲の数々。そして最後は出演者全員と客席の歌も加わって「きよしこの夜」。あっという間の1時間30分でした。

詰めかけた約100人のお客様は「クリスマスの雰囲気を楽しめました！」。ローランド芸術文化振興財団からは最新のクラシック電子オルガンを提供していただき、天空ホールに大聖堂のパイプオルガンの響きが生まれたことや、地元の演奏家が集ってのイヴニングサロンという初めての試みは、大成功でした。

レクチャーコンサート
「フォルテピアノの神髄 ～巨匠スタンリー・ホッホランドのベートーヴェン～」

世界的なフォルテピアノ奏者、スタンリー・ホッホランドさんによるコンサートを開催しました。演奏で使用したフォルテピアノは、ウィーンの名工アントンワルターが1795年頃に製作したモデルの複製。この日演奏されたベートーヴェンの「悲愴」「田園」などの名曲と、フォルテピアノの音色が良く合い、当時の音色を満喫しました。

日時：平成22年10月24日（土）16:00～18:00
会場：音楽工房ホール　出演：スタンリー・ホッホランド　入場者：146人

レクチャーコンサート
「驚異の口琴～サハ共和国のホムス～」

ロシア連邦サハ共和国は、人間が住む地域で最も寒い場所とされ、冬はマイナス60度以下、夏はプラス30度以上にもなる厳しい自然の国です。そのサハ共和国の国民楽器である鉄の口琴「ホムス」を紹介しました。演奏は、世界口琴名手スピリドン・シシーギンさん、口琴博物館館長のニコライ・シシーギンさん、口琴製作者のミハイル・マーリツェフさん、2009年ミス・ホムス・インターネットに輝いたアンナ・サッヴィナさん、それに日本口琴協会会長の直川礼緒さんの計5名。ホムスで奏でられる音楽、そして製作の技術の素晴らしさを堪能しました。

日時：平成22年11月2日（金）19:00～20:45
会場：展示室天空ホール　出演：スピリドン・シシーギン、ニコライ・シシーギン、ミハイル・マーリツェフ、アンナ・サッヴィナ、直川礼緒　入場者：74人

レクチャーコンサート（静岡文化芸術大学と共催）
「ショパンの愛したプレイエル・ピアノ～弦楽器と奏でる美しい調～」

ショパンは生涯フランスのプレイエル社製のピアノ愛用しました。このコンサートでは、ショパンが生きていた1830年にプレイエル社が製造したピアノを使い、彼が生きていた頃の音を再現しました。コンサート前には静岡文化芸術大学准教授の小岩信治さんによるプレトークがあり、ピアノの発明から現代に至るまでの変遷についてお話がありました。演奏会は、小倉さんによるピアノソロ「華麗なるワルツ」から始まり、チェロとピアノのための「序奏と華麗なポロネーズ」、そして現代ではフルオーケストラ伴奏が主流の「ピアノ協奏曲第2番ヘ短調」を室内楽版で演奏しました。弦楽器との相性が抜群のプレイエルピアノの響きを満喫しました。

日時：平成22年11月15日（月）19:00～20:45　プレトーク 18:15～18:45　会場：音楽工房ホール
出演：小倉貴久子、桐山建志、藤村政芳、長岡聡季、花崎薫、小室昌広、小岩信治　入場者：74人

レクチャーコンサート
「天使のクリスマス～チェレスタの輝き～」

チェレスタは、1886年にフランス人のオーギュスト・ミュステルが発明した鍵盤楽器です。鍵盤を押すと、内蔵されている鉄板をハンマーがたたいて音を出します。チャイコフスキー作曲のバレエ組曲「くるみ割り人形」（1892年作曲）の中の「金平糖の精の踊り」で使われています。出演は、森ミドリさんです。事前に用意されていたプログラムのほかに、お客さんから「チェレスタで演奏して欲しい曲」をアンケートで伺い即興で演奏していきました。森さんはお客さんとのコミュニケーションを大切にされ、演奏だけでなく楽しいお話もされ素敵なひと時となりました。

日時：平成22年12月17日（金）19:00～21:00
会場：展示室天空ホール　出演：森ミドリ　入場者：130人

イヴニングサロン

「フィンランドのカンテレ～北欧のきらめき～」

フィンランドの国民楽器カンテレは、テーブルの上において両手で弦をはじいて音を出します。一人で旋律と伴奏を同時に演奏し、独特な優しい涼しげな美しい音を出す楽器です。今回は北海道を拠点に演奏活動をしていらっしゃる、あらひろこさんを招き、あらさん自身が作曲されたオリジナルの曲と共に、スウェーデンやフィンランドに伝わってきた古い伝承曲などを楽しみました。

終演後は、体験時間も設けられ神秘的な音色に触発されたお客さんが音を出されたり、間近で観察されていました。

日時：平成22年10月16日（木）18:30～19:30
会場：展示室天空ホール　出演：あらひろこ　入場者：27人

イヴニングサロン

「チェンバロ三重奏によるクリスタル・サウンド」

10月3日午後2時のミュージアムサロン「電子チェンバロ・ミニコンサート」に引き続き、夜はアクア・トリニティの演奏によるイヴニングサロンを開催しました。使用チェンバロは、ミニコンサートと同じローランド製の電子チェンバロ。コレルリの「ラ・フォリア」や映画「ゴットファーザー」のテーマ、ピアソラの「ブエノスアイレスの冬」などの編曲作品と、バロック時代のチェンバロ曲であるラモーの「クラヴサン・コンセール5番」を演奏しました。

日時：平成22年10月3日（日）18:30～19:30
会場：展示室天空ホール　出演：アクア・トリニティ（礒絵里子、水谷川優子、永永牧子）　入場者：61人

イヴニングサロン

「リコーダー・カルテット～バロックからジャズまで～」

日本では小学校の音楽教材として広く知られているリコーダー。もともとはバロック時代の花形吹奏楽器でした。

演奏会は、スーパーリコーダーカルテットの皆さんによる演奏で、古典曲だけではなくイスラエルの古い民謡からジャズまで、リコーダーのオリジナル曲にとらわれず幅広いジャンルの音楽をお聞きいただきました。コンサートでは、小さなソプラニーノから背丈ほどあるコントラバスまで、さまざまな音域を担当するリコーダーが登場し、その大きさに驚きました。リコーダーアンサンブルの奥深さと可能性を感じるコンサートとなりました。

日時：平成22年10月16日（木）18:30～19:30
会場：展示室天空ホール　出演：スーパーリコーダーカルテット　入場者：57人

古楽コンクール<山梨>は、国際的に活躍される入賞者が多く、古楽を志す演奏者の登竜門的存在です。2010年は5月に開催され、応募部門はバロック時代の旋律楽器、リュート属、声楽でした。優勝はヴィオラ・ダ・ガンバ奏者のミリアム・リニョルさん（フランス）。コンサートではミリアムさんをはじめ、一緒に活動されているアンサンブル「Estamps」（エスタンプ）のメンバー川久保洋子さん（ヴァイオリン）、ジュリアン・ウォルフスさん（チェンバロ）の3人を招きました。プログラムは二人の作曲家マレとバッハの作品から、組曲「異国趣味」、「聖ジュヌヴィエーヴ・デュ・モンの鐘の音」ソナタニ長調（BWV1027/1039）を演奏しました。

日時：平成22年11月13日（土）18:30～19:30
会場：展示室天空ホール　出演：ミリアム・リニョル、川久保洋子、ジュリアン・ウォルフス　入場者：72人

イヴニングサロン　2010年古楽コンクール<山梨>優勝者による

「ヴィオラ・ダ・ガンバ」

シルクロードの音楽文化を満喫

講座「シルクロード民族音楽紀行」好評のうちに終了

昨年から開催している明治大学名誉教授の江波戸昭さんによる連続講座。今年はシルクロード各地の特色ある音楽文化を紹介しました。第6回から最終回は、「イラク」、「レバノン、シリア、ヨルダン」「トルコ」をテーマに行いました。砂漠の遊牧民「ベトウィン」などをはじめ、東西の交流路として多様な音楽文化をもつシルクロード各地を貴重な映像と音源で紹介しました。

講座「シルクロード民族音楽紀行」（全8回）
第6回「イラク」、平成22年7月10日（土）、
第7回「レバノン、シリア、ヨルダン」9月25日（土）
第8回「トルコ」10月9日（土）　各13:30～16:30
会場：アクトシティ研修交流センター
講師：江波戸昭（明治大学名誉教授）　参加者：延べ75人

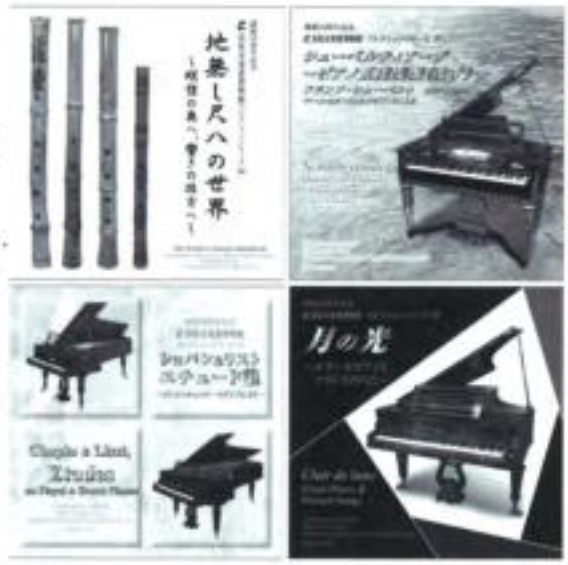
所蔵楽器が切手になりました

「音楽のまち浜松」をテーマにした切手が10月15日に発売されました。この切手は、当館所蔵の楽器を題材としたオリジナルフレーム切手で、楽器10点と館内風景が印刷されたものです。発売に先立ち、郵便局株式会社浜松地区連絡会総括局長の鈴木哲細江郵便局長より鳴和彦館長に切手シートと贈呈状が手渡されました。楽器をテーマにした切手は、海外では数多く発行されていますが日本ではあまり例はありません。

この切手は、浜松市、湖西市の郵便局で1500部のみが12月末日まで限定販売されました。

オリジナルCD 新作をリリース

各界より好評をいただいている、当館所蔵楽器によるCDコレクションシリーズ。新たに4作品を制作しました。シリーズ26「地無し尺八の世界」では、明治以降の新しい日本音楽を演奏するための現代尺八（地塗り尺八）とは構造が異なる、江戸時代に虚無僧が自身の修行のために演奏していたタイプの尺八を演奏しています。地無し尺八の魅力を余すことなく収録しました。シリーズ27「シューベルティアーデ」では、友人がシューベルトを囲み、歌を歌い、室内楽を楽しむそんな素敵な時間『シューベルティアーデ』を再現。歌曲、室内楽、そしてピアノソロでシューベルトの名曲を楽しんでいただきます。シリーズ28「ショパン＆リスト エチュード集」は、フランスで活躍したタイプの違う作曲家ショパンとリストのエチュードほかの作品集。フランスのプレイエル社（1830年製）とエラール社（1874年製）のピアノを使いました。シリーズ29「月の光」は、個性的なフランスの薫りに溢れる1874年製のエラール社製のピアノとソプラノによるフォーレ、ドビュッシー、サティの作品集。4つのCDで魅力溢れる音の世界をどうぞお楽しみください。



山田潔さんから絵画が寄贈されました

浜松市浜北区在住の肖像画家山田潔さんから、楽器博物館に、楽器を奏でる女性を描いた油彩画（80×120ｃｍ）が寄贈されました。奏でている楽器は大きなタイプのマンドリンのマンドーラです。この絵は、もともと楽器博物館に展示されている1890年頃のドイツの銅版画「マンドリナータ（マンドリンの調べ）」を、12年前に山田さんが気に入って拡大模写し、彩色したものです。原画の雰囲気にならってあまり派手な彩色とせず、深みのある落ち着いた気品高い作品になっています。山田さんが栗原勝元浜松市長に「いつか博物館に寄贈したい」と約束していたもので、それが今回実現しました。この絵は博物館地下の鍵盤楽器ルームに通じる小ホールに展示しています。是非ご覧になってください。

◆これからの催し物

●展示室ガイドツアー　毎日曜日　展示品の解説
※催し物により変更もあります。
●展示品の演奏デモンストレーション　毎日１時間毎
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
●レクチャーコンサート
「メコンの風に歌う～ラオスのケーン～」
3/22(火)19:00　音楽工房ホール
●イヴニングサロン
「ハルダンゲル・フィドル」
1/15(土)18:45　展示室天空ホール
「弦楽四重奏～ハイドン＆シューベルト～」
4/8(金)18:45　展示室天空ホール
「18世紀イギリスのチェンバロを聴く」
4/23(土)18:30　展示室天空ホール
●講座
「楽器の中の聖と俗　～アンデスの祭り～　（全３回）」
1/22(土)「悪魔と美女の踊り」
2/5(土)「標高４千メートルでシークを吹く」
2/19(土)「パチャママに捧げるピンキーリョの音」
（各回とも）18:30　楽器博物館展示室
●ワークショップ
「韓国の両面太鼓～チャンゴを演奏しよう～」
2/12(土)18:00　楽器博物館展示室

◆博物館日誌

9/25(土)イヴニングサロン
「～北欧のきらめき～フィンランドのカンテレ」
18:30　展示室天空ホール　出演：あらひろこ
入場者：27人
10/3(日)ミニコンサート
「～電子楽器の未来を探る～
電子チェンバロ・ミニコンサート」
14:00　展示室天空ホール　出演：音心、溝田陽子、辻森宏子、山本五百子、ウィンズローグ、近藤英明、弦楽アンサンブル「ゼフィール」
ゲスト出演：アクア・トリニティ　入場者：143人
イヴニングサロン
「チェンバロ三重奏によるクリスタル・サウンド」
18:30　展示室天空ホール　出演：アクア・トリニティ
入場者：61人
10/9(土)講座「シルクロード民族音楽紀行」第８回「トルコ」
13:30　研修交流センター　講師：江波戸昭　参加者：25人
10/14(木)～10/15(金)
移動楽器博物館（引佐北部小学校）　児童数：79人
10/16(土)イヴニングサロン
「～バロックからジャズまで～リコーダー・カルテット」
18:30　展示室天空ホール
出演：スーパーリコーダーカルテット　入場者：57人
10/24(日)ミュージアムサロン
「フォルテピアノ」
14:00、15:30　展示室天空ホール　出演：長谷川由輝子
入場者：78人
10/28(木)～11/28(日)
特別展「世界がびよょ～ん　口琴ワールド」
10/30(土)レクチャーコンサート
「フォルテピアノの神髄
～巨匠スタンリー・ホッホランドのベートーヴェン～」
16:00　音楽工房ホール　出演：スタンリー・ホッホランド
入場者：146人
11/2(火)レクチャーコンサート
「驚異の口琴～サハ共和国のホムス～」
19:00　展示室天空ホール　出演：スビリドン・シシーギン、アンナ・サッヴィナ、ミハイル・マーリツェフ、ニコライ・シシーギン、倉川礼緒　入場者：74人
11/3(水)　文化の日（入館無料日）
11/13(土)イヴニングサロン
「2010年吉楽コンクール<山梨>優勝者コンサート
ヴィオラ・ダ・ガンバ」
18:30　展示室天空ホール　出演：ミリアム・リニョル、川久保洋子、ジュリアン・ウォルフス　入場者：72人
11/15(月)レクチャーコンサート
「ショパンの愛したプレイエル・ピアノ
～弦楽器と奏でる美しい詩～」
プレトーク18:15、開演19:00　音楽工房ホール
出演：小倉貴久子、桐山建志、藤村政芳、長岡聡季、花崎薫、小室昌広、小岩信治　入場者：208人
12/4(土)開館15周年記念　レクチャーコンサート
「19世紀のフォルテピアノと弦楽による室内楽の極み
ベートーヴェン　ピアノ協奏曲第４番」
17:00　中ホール　出演：小倉貴久子、桐山建志、花崎淳生、藤村政芳、長岡聡季、花崎薫　入場者：611人
12/5(日)開館15周年記念　レクチャーコンサート
「19世紀のフォルテピアノと弦楽による室内楽の極み
シューベルト　ピアノ五重奏曲“ます”」
17:00　中ホール　出演：小倉貴久子、畑儀文、桐山建志、長岡聡季、花崎薫、笠原勝二　入場者：558人
12/17(金)レクチャーコンサート
「天使のクリスマス～チェレスタの輝き～」
19:00　展示室天空ホール　出演：森ミドリ
入場者：130人
12/22(水)イヴニングサロン
「ミュージアムクリスマス　ローランド・ファミリーコンサート」
18:45　展示室天空ホール　出演：浜松ライオネット児童合唱団、初村彫子、戸塚勢津子、久保田世津子、佐藤剛、小松真由美、長瀬正典、森下香菜絵、本多由美恵、綿和彦、ミックスフルーツ（小山恵子、佐々木啓、松尾圭子、竹下麻美）　入場者：122人

利　用　案　内

常設展観覧料：大人４００円　高校生２００円
中学生以下・障害者・高齢者（70歳以上）は無料
開館時間　：９：３０～１７：００
休　館　日：毎月第２・４水曜日（祝日の時は翌日）、年末年始。
その他施設点検等のための臨時休館日

浜松市楽器博物館だより
平成23年1月10日発行　No.62
編集　浜松市楽器博物館
〒430-7790　浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128　FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp
URL http://www.gakkihaku.jp/

お知らせ：「浜松市楽器博物館だより」は、ホームページからも見ることができます。また、ホームページでは最新のイベント情報も紹介しています。ぜひご覧ください。